

運協ニュース

責光 集部
発石 井 宣
編教

JR東日本

乗務員の業務等について 見直しについて 提案

JR東日本は本年9月15日、「乗務員の業務等の見直しについて」組合に提案しました。

提案の目的について会社は、「技術革新や業務内容の変化を踏まえ、これまでの役割分担にとらわれない柔軟な働き方を実現するため、働きやすさの向上を図る。」としています。

制度改正」が行われました。2019年3月には「多様な働き方の実現と効率性のさらなる追求」を目的に「乗務員勤務制度の見直し」が行われました。いずれも「効率性の追求」がメインで要員削減による労働強化が強行されました。

この間、乗務員の勤務に関しては1992年3月に「効率性と働きやすさの追求」を目的に、現在の勤務制度のベースとなる「乗務員勤務

制度改正」が行われ、2019年3月には「多様な働き方の実現と効率性のさらなる追求」を目的に「乗務員勤務制度の見直し」が行われました。いずれも「効率性の追求」がメインで要員削減による労働強化が強行されました。

車掌関係の見直し内容

早め出場の見直し

現行、乗継列車については、「列車到着の3分前に乗継箇所へ出場」が指導されていますが、「列車到着前までに乗継箇所へ出場」に変更するとしています。その一方で、「乗務に遅れないように余裕を持つ」という

「本質は変わらない」としてはいます。

現行、乗り継ぎ場面の労働時間は、徒歩時間+早め出場3分が指定されています。今後は余裕をもった徒歩時間とするため現行の徒歩時間にプラスαするのか、それとも乗務員が自主的に詰所を出る時間を早めるように懲罰するのかが説明が必要です。

起床点呼後の付加時間見直し

現行、泊行路には起床点呼後に一律5分の「付加時間」が指定されていますが、作業指示がないので削除するとしています。しかし起床点呼から乗務開始まで、トータルとして現行指定されている労働時間で十分足りているのか、あらためて検証が必要とす。

始発列車のドア開けを運転士が行う

現行、発車時刻の5分や10分以上前に出区してくる始発列車に対し、時間を指定して車掌がドア開けを行っています。運転士がドア開けを行うように見直すとしています。

提案内容では労働時間Aが減少するが、その影響は

今回の提案内容は、「3分前出場」の廃止、泊行路の「付加時間5分」の削減、出区列車のドア開けを運転士担当に変更するなどにより、労働時間A（実作業時間）が減少します。仮に、次期ダイヤ改正を現行行路のまま移行した場合、「早め出場3分」「付加時間5分」等の労働時間が減っても乗務員勤務制度上、労働時間Bが増えることになり、全体の労働時間（労働時間A+労働時間B）はほぼ同じになります。しかし会社はそのような考えはとらないでしょう。

労働時間A（実作業時間）が減少すると、実労働時間を増やすことを狙っているのではないのでしょうか。特に、拘束時間の縛りのない一般線区への影響が懸念されます。今後運協は要求作成を進めます。ご意見等をお寄せください。

